

第14回 「市民と議員の懇談会」

報 告 書

令和元年 11 月 5 日～20 日



奥州市議会市政調査会

目 次

ページ

1 開催要項	1
--------	---

2 開催状況	2
--------	---

3 各班報告書

総務常任委員会	報告・概要	3 ～ 7
教育厚生常任委員会	報告・概要	8 ～ 11
産業経済常任委員会	報告・概要	12 ～ 14
建設環境常任委員会	報告・概要	15 ～ 17

4 資料(議会だより特集記事)	18 ～ 19
-----------------	---------

令和元年度市民と議員の懇談会開催要項

1 趣旨

議会情報の発信の場及び市民と議会との多様な意見交換の場として、「市民と議員の懇談会」（以下「懇談会」という。）を開催し、議会の立場から市民への市政に関する情報提供に努めるとともに、議会に対する意見、提言、批判等市民の声を直接かつ広く聴取することにより、議会の監視機能及び政策提言機能を高める。

2 実施主体

奥州市議会市政調査会

3 開催方法

懇談会は、常任委員会ごとにテーマを定め、そのテーマに関係する団体又は市民に参集いただき、同委員会を単位として開催する。

4 内容

懇談会は、2部構成とし、以下の内容で開催する。

(1) 議会報告

令和元年に係る議会活動の概要について報告する。

(2) 意見交換

常任委員会ごとに定めた以下のテーマについて、ワールド・カフェ方式（少人数のグループごとに意見交換を行い、途中でグループ構成を変更しながら、自由に意見を出し合う対話の仕方）により意見交換を行う。

【意見交換のテーマ】

委員会名	テーマ
総務常任委員会	公共施設について ～将来の公共施設のあり方を考える～
教育厚生常任委員会	障がいのある人もない人も暮らしやすい奥州市をつくろう パート2
産業経済常任委員会	6次産業化推進のための支援のあり方について
建設環境常任委員会	ごみの減量化とリサイクルの取組みについて

市民と議員の懇談会開催状況

開催日	事業名	備考		
第14回「市民と議員の懇談会」〈4会場〉		男性	女性	計
11月5日 (火)	【教育厚生常任委員会】13:30～16:00 テーマ：障がいのある人もない人も暮らしやすい奥州市をつくろう パート2 水沢地区センター 第1・2会議室	15	8	23
11月12日 (火)	【産業経済常任委員会】9:30～12:00 テーマ：6次産業化推進のための支援のあり方について 奥州市役所7階委員会室	13	8	21
11月15日 (金)	【建設環境常任委員会】15:30～17:00 テーマ：ごみの減量化とリサイクルの取組みについて 奥州市役所7階委員会室	7	4	11
11月20日 (水)	【総務常任委員会】13:30～15:30 テーマ：公共施設について ～将来の公共施設のあり方を考える～ 奥州市役所7階委員会室	14	8	22
合 計		49	28	77
第13回（H31.2）4会場		41	28	69
第12回（H29.11）5会場		66	15	81
第11回（H29.2）5会場		127	10	137
第10回（H28.2）5会場		267	26	293
第9回（H27.11）5会場（消防団各方面隊対象）		146	0	146
第8回（H27.11）10会場		132	9	141
第7回（H26.11）20会場		258	31	289
第6回（H25.11）5会場（女性団体対象）		0	94	94
第5回（H25.6）10会場		136	7	143
第4回（H24.7～8）30会場		399	55	454
第3回（H24.2）10会場		188	18	206
第2回（H23.7）10会場		167	18	185
第1回（H22.10～11）10会場		116	18	134

第 14 回「市民と議員の懇談会」報告書

総務常任委員会

1 開催日時	令和元年 11 月 20 日（水） 13:00 ～ 15:30
2 懇談テーマ	公共施設について ～将来の公共施設のあり方を考える～
3 会 場	奥州市役所 7 階委員会室
4 参加者数	22 名（内訳：男性 14 名／女性 8 名／傍聴 1 名）
5 出席委員	班 長 菅原 由和 委員 進行係 高橋 晋 委員 説明係 今野 裕文 委員 記録係 菅原 圭子 委員、中西 秀俊 委員 受付係 小野寺 重 委員
6 懇談会の概要	（P 4～7 のとおり）
7 反省点、 次回の課題等	参加者からは、「ワールドカフェスタイルは話しやすかった。」「議員と意見交換をすることができ良かった。」等、「満足」「やや満足」と回答された方が半数を超え、概ね好評を頂き有意義な懇談会であった。前回は時間が足りずにできなかった、第 4 ラウンド最後の各グループ発表も行いうことができ、参加者全体で意見を共有することができたことは、前回よりも進歩した点であると思う。 しかし、活発な意見交換は出来たものの、一方では「やや不満足」と回答された方もあり、「時間が足りず踏み込んだ話しが出来なかった」「違う立場の方の考えをもっと聞きたかった」等、物足りなさを感じたといった意見が複数あったことから、今後の開催にあたっては、1 グループの人数をはじめ、1 ラウンドあたりの時間や移動回数、あるいはテーマの絞り込み等の工夫をする必要があると強く感じた。 また、今回のテーマは市政の大きな課題でもあり、引き続き議会と継続した意見交換を望む声もあったことから、常任委員会として独自に開催していくことも検討していく必要があるのではないかと感じた。

第14回「市民と議員の懇談会」概要

【 総 務 】常任委員会

①意見交換(ワールドカフェ)

No.	意見・提言等
1 2 3 4	■懇談テーマに関する意見・要望 【計画期間】 ・40年後のイメージでは遠すぎる。耐用年数が迫っているため、10～15年後をイメージしたあり方を考えるべき。 ・40年後を想定しても、社会変化、ニーズの変化、コミュニティのあり方そのものが変わっているかもしれない。10～15年後の方が想像しやすい。 ・40年後の交通事情(例:ドローン、飛ぶ車等)やAIロボット等の発達も見据えて市全体を考える必要がある。 ・10年後、20年後といった短期間での見通しも大事である。 【財政状況】 ・市は、コストパフォーマンスを考えてほしい。無駄ではないかと思われる所に市税が使われている。本当に必要な所に使って欲しい。市職員はすぐお金がないからと言うので止めて欲しい。 ・市は財政難や合理化のもとに施設を無くそうとしているが、その課題を解決や方法、手立てをすることなく壊すことしか考えていないと思う。市の政策で決めたことだから行えない、なくす、というのでは、協働のまちづくりとは言えない。市民への行政の押し付けとしか思えない。全てにおいて、身体と知恵を使うべきではないか。子供たちの将来を本気で考えて欲しい。 ・文化、スポーツにも、道路管理費と同じくらいに毎年お金がかかる。 【現状把握】 ・参加者はみんな、奥州市が良くなることを考えている。現状は認識している。その上で、それぞれの地域の考えがあって当然だ。 ・4つの会館の特徴をどう活かしていくか、何を活かすか。市民が必要としていることと、会館側が提供することのバランスが大切だと感じた。単純に数が多いから減らすというのではなく、まずは利用者数をどうやって増やすのか等、類似施設と連携して職員を派遣するなどの手立てが必要である。 ・それぞれの施設で、どういうことに取り組んでいるかをよく知ることが、施設の整理統合の道筋を作ることになると思う。例えば、4つの文化会館が同じように市民劇を苦勞してつくり上げているが、そのスタッフが一同に集まって奥州市で一つの市民劇を作ることで、北上のさくらホールより素晴らしい事業が可能になると思う。 ・プロパー職員が10人以上もいる施設と、2人程しかいない施設の差が出るのは当たり前と思う。実態を良く知ることが大切である。 ・奥州市の人口、予算に比べて施設が多いことは市民の大部分は理解している。 ・合併時のお土産の処理をするべきだが、「おらが村」の人が多い。 ・屋外よりも屋内施設のほうが問題が多いようだ。 ・本日の参加の皆さんも現状からなかなか脱却できない考えが多かった。 【既存施設の維持・活用】 ・各施設の特徴を生かした運営をするべきである。 ・運営、経営、維持等の課題もあるが、若者のことを考えると、なくすことだけでなく残すことも考えるべきだと思う。 ・今ある施設を如何に残すかという視点で考えて欲しい。 ・地元の施設は古い文化施設ではあるが、住民の「心の拠り所」となっていると自負している。合併時の様々な事情があれ、各地域に一ヶ所ずつ「文化施設」は必要と考える。維持には、まだま

だアイデアがある。

- ・文化会館、スポーツ体育施設等の維持管理で苦労していることはわかるが、5地域それぞれの市民が、その施設があることで元気に地域活性化を図っていることを重視して欲しい。
- ・子育ての手助けになるよう、統合した廃校の跡地利用を考えてほしい。

5 【施設の統合・縮小・廃止】

- ・スポーツ施設は早期に縮小したほうが良い。
- ・文化会館の必要性は多くの方々が感じているようだ。統合する時は、それに代わる小規模的施設が各地に必要なと思う。
- ・水沢中心の考え方ではなく、適正なバランスある配置の統廃合を希望する。中心の水沢を強くするには他の4地域に重点的に配置をして、その波及効果が中心を強めると考える。
- ・メインを作ってから既存の施設の処理をすべきである。
- ・施設を減らしても学校開放なりの取り組みをするべきである。

6 【施設の新設】

- ・意見交換の中で、奥州市に一つ大きな野球場があっても良いのではないかという意見があったが個人的には賛成である。

7 【他施策等との連携】

- ・はじめから、施設の老朽化、予算不足、少子高齢化を理由に、いかに施設の数进行減少させるかではなく、子どもから高齢者まで利用できるように、介護予防の推進も同時に考えるべきである。
- ・人口減少や財政難を食い止める方策の話し合いがあっても良いのではないか。
- ・後藤新平のように100年先を見据えたまちづくりに学ぶべきである。公共施設、障がい者、幼児、高齢者施設等の連携でこの時代を切り開くべき。公共施設に対し、予算なしの議論ではあまりにも知恵が足りない。今、成すべき事は人づくりである。

8 【指定管理】

- ・指定管理者も更に多くの声を聞き入れ、市民サービス向上に努力すべきと再認識することができた。
- ・公共施設のあり方と指定管理のあり方が混同してしまっている。施設の廃止と管理のあり方は区別して考えるべきである。
- ・懇談会をとおして、指定管理の苦労が理解できた。
- ・文化会館、体育館に携わる人が臨時職員だとアルバイト的な考え方しかできないと思う。働く人達が夢を持って働けるよう、待遇改善を希望する。
- ・指定管理費が上がることなく、給料も値上げできない現状。若い人が勤めてもすぐやめていく実態。
- ・指定管理団体の賃金はブラック企業並みであるので見直しが必要。継ぐ人がいない。
- ・合併による一つの目的である統合整理が14年目で本格的に検討されている。統廃合、また新しくする際に、市全体にバランスある配置の計画を立てて進める重要な時である。本気で施設運営を図る際、指定管理にしる、安い人件費を目的とした内容では淘汰の道になる。責任ある給与を保証してきっちりと見てもらいたい。「人材」ではなく、「人財」であるべきである。

9 【市民や関係者との意見交換の必要性】

- ・公共施設のあり方について各地域で懇談会が必要。
- ・奥州市の未来のため、これからも色々な場面でディスカッションして行くべきと思う。
- ・公共施設の関係者があり方を協議するだけでなく、広く福祉や農業関係者等の方々の意見を取り入れた方が客観的な意見が出ると思う。
- ・広報おうしゅうでのアンケート調査はあまり効果がないと思う。幅広い年代層の本音、意見の集約をお願いしたい。

10 【今後の方向性】

- ・人口減は今後も避けられない。なるべく早めの決断を。
- ・何事にもオール奥州で考える時期に来ていると思う。思い切った決断を早くしなければならぬ。
- ・各地域で考えるのではなく「オール奥州」で考えるべきだと思う。
- ・合併以来の問題を引きずっている限り、事は進まない。もっと大局に立つべきである。
- ・そろそろ、行政の側から方向性を出して欲しい。
- ・行政を信頼して、私たちは活動していく。
- ・市長と議員は市民が選んだ人たちなので、市長と議員で決めたことに市民は従うと思う。
- ・決断するのは議会である。
- ・参加者それぞれが、公共施設のあり方や管理運営に対して前向きな考えを持っていると感じた。
- ・立場等によって考え方が色々ある。方向性を見つけるのは大変であると思う。
- ・公共施設のあり方がトップダウンなのか民意からなのか。民意の盛り上がりが見たい。

11 【その他の意見・要望】

- ・市は本気で公共施設再編をやろうとしているのか。地域、行政、団体の意見をまとめる専門職員を配置するべきである。
- ・施設の広域連携の推進を。奥州市はまだまだ捨てたものではありません。もっとアイデアと情熱を！
- ・地域を知る職員が少なくなった。地域のコミュニティの変化を感じる。
- ・類似施設がたくさんありすぎる。

■参加者からの感想

満足…………… 6名
やや満足…………… 6名
どちらでもない… 5名
やや不満…………… 2名
不満…………… 無
無回答…………… 4名

■ワールドカフェに対する意見・要望

- ・もっと対話の機会を設けて欲しい。今後も開催を期待する。
- ・カフェは日本人向きではないか。皆さん多くの意見を出して話し合えた。
- ・議員の皆さんと意見を交わす機会をいただき、参加してとても良かった。
- ・議員さんと懇談ができて良かった。議員はもっと市民と対話を。
- ・もう1回位ラウンドを行って欲しかった。せっかくの機会だったのでより異なった立場の人の考えを聞きたかった。
- ・大変有意義だが時間不足だった。テーブルの進行に工夫も必要では。
- ・カフェはとても話しやすく良かった。1テーブルが20分では、とても時間が足りないし踏み込めず不満足に終わるように思う。
- ・1回の移動では物足りない。ゆっくり話し合いたかった。これからというときに時間が来てしまう。
- ・将来を担う若者達にもこのような場を提供しニーズを聞いて欲しい。開催時間など参加率を上げるために考慮して欲しい。
- ・本日の結果の活用方法について、議員同士の話題にするのか？広報等で市民に報告するのか？今後とも続けて行っていくべき。
- ・議員と関係団体との意見交換の場をつくって欲しい。

②議会へのご意見等

No.	質問・意見・提言等	回答(説明)	処理(調査、回答等)
1	先の台風19号の際に避難所として開設された稲瀬小学校において、体育館には毛布が数枚用意されている程度で、ストーブもない状況であった。避難所指定を受けている施設なので、そのあり方について考えていただきたい。	稲瀬小学校における避難所の取組み方について担当課(市民環境部危機管理課)に確認をして後ほど答弁差し上げる。	当日の状況について担当課に確認し、質問者へ回答した。
2	指定管理施設における職員の賃金や現状を理解したうえで、指定管理のあり方について考えていただきたい。	9月定例会決算審査において、議会から当局に対し、「指定管理料の設定は、業務量に見合う水準とするほか、適正な人員体制となるよう配慮されたい」という附帯意見を提出している。	
3	公共交通について、今後免許証返納者は増え、移動手段がないために日常生活が不便になると危惧される。前沢ではデマンドバスがあると聞いたが奥州市全体としてはできないものか。交通弱者に対しても思いやりのある、やさしい奥州市をつくってほしい。	高齢者をはじめ移動手段を持たない市民の方々にとって困難な状況にあることは十分理解している。我々総務常任委員会としてもこの課題に取組み、6月定例会において当局に対し、「公共交通施策に関する政策提言書」を提出したところである。その中で拠点間交通や地区内交通についてもふれさせていただいた。今後もそれらの導入に向けて積極的な取組みを継続していきたい。	

第 14 回「市民と議員の懇談会」報告書

教育厚生 常任委員会

1 開催日時	令和元年 11 月 5 日（火） 13:30 ～ 16:00
2 懇談テーマ	障がいのある人もない人も暮らしやすい奥州市をつくろう パート 2
3 会 場	水沢地区センター 第 1 ・ 2 会議室
4 参加者数	23 名（内訳：男性 15 名／女性 8 名／介助者 1 名／ 通訳者 3 名／傍聴 1 名）
5 出席委員	班 長 高橋 政一 委員 進行係 千葉 敦 委員 説明係 小野寺 満 委員 記録係 小野 優 委員、瀬川 貞清 委員 受付係 阿部 加代子 委員
6 懇談会の概要	（P 9 ～11 のとおり）
7 反省点、 次回の課題等	前回の反省を活かし、十分な空間を確保し、時間を延長して実施した。その結果、どの班も活発な意見交換ができた。前回は移動に戸惑った印象があったが、今回はスムーズだった。 「来てください」というスタイルだったが、現場に出向いて話を聞くという姿勢も必要だと感じた。 今回は各種団体への要請以外に一般の参加者もあった。聞いて終わりではなく、その内容を解決するためにどこまで取り組むことができるのかが今後問われることになると思う。 時間についてはこれまでもまだ短いという声もあるが、前回より好評を得ており、また、継続的な開催を求める声が多かった。

第14回「市民と議員の懇談会」概要

【教育厚生】常任委員会

①意見交換(ワールドカフェ)

No.	意見・提言等
1	【交通・移動】 (車) ・タクシー券の追加支給。 ・バスが利用しづらい。 ・福祉バスを借りたいが、利用が難しい。 ・高速道路インターチェンジの無人化がかえって不便。 (電車) ・駅にエレベーターが必要だ。 ・電車内や駅が暗いため電光掲示板を。 ・転落防止柵の設置を。 ・白杖の方への声掛けを。 (その他) ・同行援護は使い易いが、同行者分の費用は全額自己負担を。
2	【個人情報】 各種団体への加入者の減少 →特にも若い人が入ってこない。 →手帳説明会で具体的な説明をして欲しい。 →行政で受付して欲しい。
3	【防災】 ・災害時の避難不安だ。 ・タイムライン計画や災害時個別避難計画の策定を。 ・障害者用ハザードマップを。 ・要援護者に通所・在宅の人が入っているのか？※在宅の人まで目が届いていない ・要援護者の名簿の作成だけではなく、しっかり活用を。 ・災害時の障がい者の避難の仕方 地域住民の理解が必要だ。 ・災害時、民生委員だけでは限界がある。 ・連れて行く人がいない。 ・福祉避難所はどこまで対応できるのか？ ・福祉避難所の存在を市民に周知してほしい。 ・台風19号災害があった時避難所の職員の知識不足により避難できなかった。
4	【障害者への理解】 ・障がい者への理解は以前に比べると進んではいると思う。 ・小中学生に福祉教育を。 →まだまだ障がい児へのいじめがある。 ・自閉症の人を不審者と思い警察出動となったこと。 ・聴覚障害者標識(耳、蝶々)の周知を。 ・行事等で障壁のない、誰でも参加できる企画を。 ・地域・学校と連携した交流の創出を。 ・障がい者とオープンに話し合いができる機会の創出を。 ・難聴でも小学校でのボランティアができると思う。 ・広報で特集を。

5 【当事者の声】

- ・当事者からの発信聞き取りをしてくれない。
- ・どの部門も、障がいのある人の要望を聞きとれていないのではないか。
- ・議会に専門に協議する委員会等を作った方がよい。
- ・皆様の声をもっと聞くような体制を。
- ・障がいをお持ちの方のニーズが、十分把握できていないように感じる。

6 【相談】

- ・ワンストップ対応を。
- ・相談窓口がわからない、たらい回しのときがある。
- ・通訳者がいない。

7 【サポート】

- ・ボランティアの減少。
- ・障がい者の活動へのサポートを。
- ・作業所があるれている、設備の不足。
- ・銀行や郵便局、病院など、通訳者とは言わないが筆談の対応や呼び出しを大きくしてほしい。
- ・郵便物への点字対応を。

8 【その他】

- ・自身が手を上げてほしい。
- ・加齢による難聴が障がいとは認定されない。
- ・障がい者用の老人ホームが必要になってきている。
- ・虐待の問題をきちんとしてほしい。
- ・障がい者手帳のカード化を。

■参加者からの感想

満足……………5人
やや満足……………8人
どちらでもない…6人
やや不満……………1人
不満……………0人

■その他、意見、要望

- ・時間がたりない。(2人)
- ・議員に課題提起する良い機会であった。継続すべきである。
- ・市の条例制定に期待している。
- ・一般参加の方々がいらしたことが良かったと思う。
- ・参考になる事が多くあった。障害者支援法をいつか広報で知らせたい。
- ・日常の相談でも、ワンストップで対応できる組織を官も民も一緒に考えていく必要がある。
- ・たいへん有意義な話し合いだった。是非パート3～4と継続していただきたい。次回は(保護者)育成会団体にも案内していただきたい。
- ・発達障がい者の見つけ方など医療知識のある人の話も必要だと思う。
- ・県の条例に沿うのではなく奥州市独自の条例を。
- ・まずはじめに、昨年度の話し合いがどのようなになったか質問したいと思っていたところに、詳細な説明をいただいた。感謝する。

②議会へのご意見等

No.	質問・意見・提言等	回答(説明)	処理(調査、回答等)
1	なによりもバス対策。スクールバスの混乗は可能。学校統合はスクールバス計画とセットで。バス特区をとるなど、赤字でもバスは維持するべき。	ご要望として承る。	
2	基幹相談支援センター、進めて欲しい。	ご意見として承る。	
3	災害時の避難。在宅の方への手当が行き届いていないことを感じた。障害者自身から手を挙げてもらわないと、差し伸べられない。個人情報保護の壁がある。 県条例に基づいた不利益に関する相談業務について。自治体で一様ではない。権利擁護の取り組みや障害を持っている人の不利益を検証すべき。	ご意見として承る。	

第 14 回「市民と議員の懇談会」報告書

産業経済 常任委員会

1 開催日時	令和元年 11 月 12 日（火） 9:30 ～ 12:00
2 懇談テーマ	6 次産業化推進のための支援のあり方について
3 会 場	奥州市役所 7 階委員会室
4 参加者数	21 名（内訳：男性 13 名／女性 8 名）
5 出席委員	班 長 藤田 慶則 委員 進行係 菅原 明 委員 説明係 廣野 富男 委員 記録係 佐藤 郁夫 委員、 加藤 清 委員 受付係 千葉 和彦 委員、 及川 春樹 委員
6 懇談会の概要	（P 13～14 のとおり）
7 反省点、 次回の課題等	今回は 6 次産業化がテーマということで、農家の方の参加も多かったが、開催時期について「時間のある冬にしてほしい」という声があった。テーマや対象者によっては、開催時期を考慮することも必要と思われる。 予定していた時間を超えて 2 時間半で実施したが、それでも「もう少し時間がほしい」という声が多く寄せられた。

第14回「市民と議員の懇談会」概要 【 産業経済 】常任委員会

①意見交換(ワールドカフェ)

No.	意見・提言等
1	【PR・宣伝・販促の機会の不足】 ○商品(試作品)を作っても、販売・宣伝する場所・手段が不足していてマーケティングが充分でなく製品の評価が困難、それにより消費者の動向や指向がつかみづらい。また、商品への反映が遅くなる。 ○奥州市独自のアンテナショップを設け、少量の商品でも販売できるようにしてほしい。 ○PR・販促・消費者嗜好等の情報収集の場として、市単独のアンテナショップの設置。 →輸送コストの削減にもつながる。 ○空き家等をリノベーションして簡易的な産直施設として活用し、減少している小売店の確保につなげる。 ○楽天市場、yahooショッピングを模した奥州市場、奥州ショッピング等、webサイトを作ってみては。 ○ふるさと納税の返礼品に、個人の農産物や加工品を取り入れる。
2	【連携の不足】 ○販路拡大への支援として、異業種との交流会の開催。 ○商品化に向けた原材料を求める企業と、生産者をマッチングできるような、情報交換の場の設定。 ○販路拡大、商品開発に向け、県南地区のホテル、レストランとの提携について市が橋渡しをしてほしい。 ○地域内で加工設備を所有している事業所との連携により、試作のスピードもアップすると思う。
3	【加工場の不足】 ○簡単な加工施設があれば、簡単な試作品などの開発が出来るが環境が整っていないので全ての段取りを一から進める必要がある。故にアイデアがあっても商品化が進まない。 ○加工場を整備してほしいが、市民が自由に使える施設だと、保健所が許可しない可能性がある。 ○若い人たちが気軽に参加できる加工体験の場の設置。 ○加工場は、設置後の運営・維持を考えると、外注という方法も視野に入れるべき。 ○今ある加工施設を活用するため、市内の加工施設のリスト化。 ○加工場については、既存施設の情報を整理してネットワークを構築することが現実的。 ○加工を外注すると原価が高くなるので、そこに対する支援が必要。
4	【規制緩和】 ○(農地転用・保健所の申請等)規制緩和が必要。 ○保健所の規制が厳しく、簡単には許可されない。担当者によって差があることも。 →必要書類や出店までの手続きについて、分かり易い説明(マニュアル等)があると良い。
5	【その他の意見・要望】 ○個人の6次産業化は作って終わることが多い。利益につながるよう最後までサポートする体制が必要。 ○容器やパッケージへの支援や送料に対する支援も必要。 ○外向けの販路拡大には経費がかかるので、外から呼び込む(農業体験や加工体験等が出来る)施設をつくり、定期的なイベントの開催。 ○人手不足→専業で従事する人材が限定的で現在の作業を進めることで精一杯。 ○情報の不足→補助事業や補助金等の分かり易い説明が必要。 ○品質や希少性での評価がされにくく、手間暇かけたものが必ずしも評価が高いとは限らない。 ○大手スーパーの出店が進んでから、大手との価格競争が進んでいる。大手スーパーの影響で、小規模小売店が減少し、農家の出荷先が減少してきていることにより販路が縮小。 ○農業者の連携により安定供給の体制づくりが必要。 ○農業後継者・農家後継者の育成のためにも、損をしない6次産業化、所得の向上が欠かせない。 ○地産地消で地元で食べてもらうことも大事。 ○地産地消のために、もっと学校給食で市産食材、6次加工品も活用した方がいい。 ○売上高の向上のために、通年材料の確保が課題である。
	■参加者からの感想(19名)

・満足……………	6名
・やや満足……………	8名
・どちらでもない……	2名
・やや不満……………	1名
・不満……………	0名
・無回答……………	2名

■ワールドカフェに対する意見・要望

- ・もっと色々な人達の意見を聞きたかった。時間が短かった。
- ・今回出た意見や要望が1つでも具体的に解決できると嬉しい。
- ・参加者が一次産業の方が多く、二次、三次の方が少ないと感じた。
- ・こういう機会が増えて、形にすることが何よりも大事である。
- ・時間が足りないと思ったが、時間を長くしてもこれでいいということもないと思う。
- ・今までと違ったワールドカフェという話し合いのやり方で、色々な方の意見を聞くことができてとても良かった。
- ・ここで出された意見が活かされれば良いと思った。
- ・様々な意見を伺うことができ勉強になった。
- ・1つのテーマでも、色々な考え方、対策が考えられたことはとても良いと思う。
- ・普段話す機会がない方々と話ができる貴重な時間だった。ここで出し合ったアイデアが活かされるとよい。
- ・開催時期を冬とかの時間のある時にしてほしい。
- ・思ったよりは楽しかった。参加して色々勉強になった。無ではなかった。
- ・楽しんで遊びながらの農業なので、ちょっと場違いにも感じた。

②議会へのご意見等

No.	質問・意見・提言等	回答(説明)	処理(調査、回答等)
1	水沢江刺駅周辺が暗い。 街路灯を増設してほしい。	市当局・関係機関にお繋ぎします。	藤田慶則委員長が都市整備部の担当課へ繋いだ。
2	水沢駅の南側駐輪場の管理について放置自転車を整理して、十分な駐輪スペースを確保してほしい。(自分の駐輪スペースを確保するためか、置いている自転車が投げられることがある。)	市当局・関係機関にお繋ぎします。	
3	農地転用を緩和すべき。 耕作放棄地が増えている。	(奥州市農業委員会 千葉政三農政専門委員会委員長) 耕作放棄地の増加は、現状で農業委員会としても最大の課題と捉えている。農業委員会としても協議検討し、関係機関と連携しながら対策を講じていきたい。 具体的な場所と所有者を教えていただければ、さっそく対応する。	

第 14 回「市民と議員の懇談会」報告書

建設環境 常任委員会

1 開催日時	令和元年 11 月 15 日（金） 15:00 ～ 17:00
2 懇談テーマ	ごみの減量化とリサイクルの取組みについて
3 会 場	奥州市役所 7 階委員会室
4 参加者数	11 名（内訳：男性 7 名／女性 4 名／傍聴 1 名）
5 出席委員	班 長 飯坂 一也 委員 進行係 及川 佐 委員 説明係 高橋 浩 委員 記録係 高橋 浩 委員、 千葉 康弘 委員 受付係 渡辺 忠 委員、 及川 善男 委員
6 懇談会の概要	（P 17～19 のとおり）
7 反省点、 次回の課題等	お一人お一人それぞれの立場から、多様な意見が出され、活発な会合になった。ワールド・カフェ形式も 2 回目になり、より順調に進行できたと思う。アンケートでも満足、やや満足が多かった。 感想を読んでみて、このような話し合いの場が望まれていると感じた。今回のテーマは、まさに実践に結び付けることが大事で、出された意見やアイデアをどう生かすか鋭意、検討をしていきたい。

第14回「市民と議員の懇談会」概要

【建設環境】常任委員会

①意見交換(ワールド・カフェ)

No.	意見・提言等
1	●ごみの減量化 【生ごみ対策】 ・町場と農村部で対応が違うが、水切りやコンポストを使うことが大事。 ・市は、生ごみの水切り徹底とコンポスト補助制度をもっとお知らせすべき。補助申請数が少ない。 ・分別することで生ゴミが減少する。 ・生ゴミの再利用を考えた処理を関係機関で協議してほしい。 ・給食残菜→醗酵・乾燥→有機肥料→有機野菜栽培→給食・一般家庭に販売のサイクルを。
2	【地域での活動】 ・高齢者のごみ出しに地域の協力を。ごみは重く、ステーションは遠い。 ・なぜを知り、いろんな現状を聞くことで、今すべきことを考え、取り組む。一人からみんなで。 ・ごみを出す時間を守り、ごみ袋に名前を書くこと。 ・レジ袋からマイバックを持ち歩く習慣を。
3	【分別の教育・啓発】 ・一人ひとりのモラルを高めるまちづくりを。 ・分別の大切さを教える。混ぜればごみ、分ければ資源、ごみの減量には分別が重要。 ・コンビニとステーションとで出し方に違いがあり、分別の徹底が崩れている。 ・市の分類の仕方をわかりやすくしてほしい。一関市の分類の説明が分かりやすい。 ・小さなくりの講習会で分別を伝えることが大切。リサイクル出前講座の活用を。 ・ごみの減量には家庭内の継続した話し合いが必要。 ・家庭でも大人から子供へ分別を教える取組を。 ・小中学校でごみ・リサイクル学習を。 ・子ども達に分別の仕方を教えることでアイデアが生まれる。 ・子どもからの注意で、親や家族も分別するようになったこともある。 ・交通ルールも幼少期から、ゴミもこれと同じ。
4	●リサイクル 【リサイクルステーション】 ・リサイクルステーションだけでなく、ごみステーションにもリサイクルポスター掲示を。 ・日曜リサイクルステーションにも分別確認のためのリサイクルポスター掲示を。 ・スーパーのリサイクルコーナーを使っているの、市のリサイクル実態がわからない。 ・リサイクル集積場が少ない。
5	【地域での活動】 ・最近では集団回収の実施回数が少ない。 ・60回の集団回収で車いす2台になったので、ぜひ取組みをしてほしい。 ・地域でもストックヤードがあると良い。 ・分別することで資源　ごみを分けて燃えるごみが減った
6	【リユース】 ・ペットボトルを再利用して服等の品物を作る。これらの事実を周知すべき。 ・U字溝やフリース等のリサイクル品が見えるような教育をしてほしい。 ・白色トレイは白だけで分別するように徹底を。色が入ると白色に再生できない。 ・リサイクル業者は、自社の評価が低下しないようにきれいなリサイクルごみのみを納品する。市民は、汚れを落としてリサイクルに出すように。 ・ペットボトルキャップの回収は質が良いために良い値が付き、ユニセフへの協力にもなる。 ・リサイクル業者の見学やリサイクル業者が納品する最終処理業者の見学の事業を実施してほしい。
7	【リサイクルの教育・啓発】 ・市は何がリサイクル可能かを分かり易く周知する必要がある。 ・プラスチックのリサイクルマークもPS・PP・PE・PET等種類多い。分類を細かくすべき。 ・食品トレイ等がゴミとして出されているのでリサイクル率が下がっている。 ・分別まで考えたトレイ使用を販売業者にも啓発してほしい。 ・家庭内でリサイクル分別が大切だ。 ・リサイクル業者が対応できる分別方法を。 ・ペットボトルのラベルが付いたままリサイクルに出されている。

- ・コミュニティFMでもめぐみネットの活動を放送しているので、視聴してほしい。
- ・リサイクルで再生した物を子供達の目に見えるようにするのも効果的。

■参加者からの感想(9名)

- ・満足…………… 7人
- ・やや満足…………… 2人
- ・どちらでもない… 0人
- ・やや不満…………… 0人
- ・不満…………… 0人
- ・無回答…………… 2人

■その他の感想

【参加者へのアンケートから】

- ・「ごみ育」という日本一楽しい分別の本がおすすめです。
- ・大切なことは、楽しくそれぞれの人に届くように、何度でもが大事です。卓を囲んでの顔合わせが大事です。
- ・協働の提案テーブルもこのように活用できるようにしましょう。
- ・参加して面白かった体験を、もっと市民に還元しましょう。
- ・若い人たちを一杯褒めながら、参加の機会を作っていきましょう。
- ・生ごみ処理は、各自が手軽にできる方法を周知してほしい。
- ・細かい分別法は、出前講座を開くことが大事だ。
- ・皆で毎日意識すること、話し合うこと、続けていくことが大切であると感じた。
- ・色々な方の考えを聞くことができ、ごみの減量化とリサイクル一つをとっても、人によって捉える角度が違うのは、これからの活動に生かしたい。
- ・ごみの分別の仕方が分からない方が多い。
- ・リサイクルできるものが分かりにくい。
- ・毎日のこと、一人ひとりのことなので、家庭や地域でのモラルの醸成が大事。
- ・リサイクル商品を意識することが大事。
- ・地域の取組みを地域内に発信することが大事。
- ・地域によってごみの出し方に対する意識の高さが違う。
- ・リユース(再使用)をもっとわかるようにした方がリデュース(ごみの発生抑制)の意識が高くなるのではないか。
- ・個人でなく団体にリサイクルをして、自分たちのお金にしてほしい。
- ・ごみ(特にプラスチック)の分類の仕方を知れば知るほど、同分類していいのかわからなくなる。何か基準となるリサイクル方法をチラシに示してほしい。

②議会へのご意見等

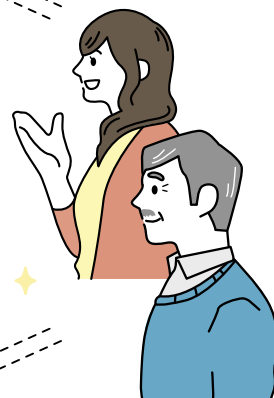
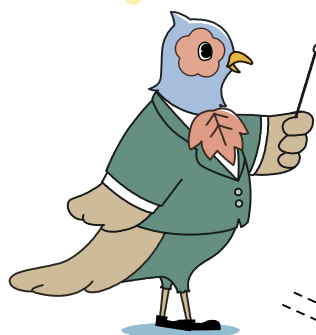
No.	質問・意見・提言等	回答(説明)	処理(調査、回答等)
	なし		

いっしょに
考えてみよう!

市民と議員の懇談会

みんなで考える、 奥州市の将来

どうする? どうなる?



・教育厚生・

障がいのある人もない人も 暮らしやすい奥州市をつくろう

パート
2

「障がいのある人もない人も暮らしやすい奥州市をつくろう パート2」をテーマに、障がい者や障がい者団体関係者、一般参加者合わせて29人が参加し、6つのテーブルに分かれて意見交換を行いました。

懇談会開催の約2週間前には台風19号が襲来し、高齢者等避難準備情報の発令があったため、当日は、避難時のことや防災行政に関する発言が多くを占めました。さらに、障がい者に対するきめ細やかな施策や支援の要望が出されました。



・総務・

将来の公共施設の あり方を考える

総務常任委員会は「将来の公共施設のあり方を考える」をテーマに、参加者23名が6つのテーブルに分かれて意見を交換しました。



統廃合を進めるべきという意見と、経費の見直しや利用者を増やす等の工夫により施設を存続させるべきとの両極端の意見が飛び交う形となりましたが、全員が「10年、20年と先を見据え、安定した奥州市であってほしい」という同じ思いを抱いていました。

手話通訳者の配置を

耳に障がいのある私たちには、日常生活において、不自由に感じることがあります。

駅や電車内でのアナウンスや自動販売機、料金精算機などの音声対応では、私たちは理解が難しいです。病院や医院では、受付で「聞こえないので手で合図して下さい」と伝えても、受付と看護師から声を張り上げて呼ばれるなど、困ることがあります。

市役所（福祉関係）、医療機関、金融機関、大型店などには、手話通訳者を置いてほしいです。



きくち こ
菊地 エミ子さん

市民の声をこれからも大切に

会議資料には40年後の市の実態とありましたが、もっと短い期間（10年～15年位のスパン）で考えても良いのではないのでしょうか。飛ぶ自動車やAIロボットなど近未来的に進化していくと思われる変化も踏まえて、公共施設のあり方も考える必要があるという意見も出て、色々な視点での検討も大切だと思いました。未来を考えた施設のあり方が今後重要になってきます。私たちの住む奥州市がより住みやすく、住み続けたい豊かなまちとなるよう、市民の声を大切にしてほしいと願います。



きくち さちこ
菊地 祥子さん



ワールドカフェ形式で 活発な意見交換



市議会では、議会情報の発信や、市民の皆さんとさまざまな意見交換をすることを目的に、市民と議員の懇談会を毎年開催しています。ことしは11月5日から20日にかけて、水沢地区センターや市役所を会場に、4つの常任委員会ごとにテーマを設けて実施。皆さんの考えを伺うことで、政策提言に反映させたり、テーマをさらに絞った所管事務調査を実施したりと、市議会にとって有意義な取り組みとなっています。

これらの声が市の政策に反映され、市民の生活向上につながるように、市議会として活動を継続してまいります。

・建設環境・

ゴミの減量化とリサイクルの 取り組みについて

環境団体や業者、一般の方々など、11名の参加者が4つのテーブルに分かれ、「ゴミの減量化とリサイクルの取り組みについて」意見交換を行いました。いただいた沢山の御意見の中にいくつかの共通事項がありました。それは「①家庭で幼少期からのゴミ教育が大切。②分別判断の基準となる情報が少ない。③リサイクル製品・商品の見える化や紹介も必要ではないか」ということでした。



意見交換できる機会の拡大を

問題が数多くあるなかで、担当課との一対一での問題解決は、やりにくい時代です。複数の担当の方と意見交換する場が必要と感じています。今回は業者の方や地域の方ともお話ができて、勉強になりました。未来に繋がる子どもたちへの思いも感じられ、多様な環境の方と知り合う場が出来て良かったと思います。このような機会をさらに広げていく必要があると感じました。話し合ったことが実際に市民に伝わり、市政運営にも反映されていくことを心より願っています。

わこう かずえ
若生 和江さん



・産業経済・

6次産業化推進のための 支援のあり方など

農業関係団体や産直出荷者、6次産業化の実践者の方々など21名の参加者が6つのテーブルに分かれ、それぞれ6次産業化推進のための支援のあり方などについて、日頃から思っていることを意見交換しました。課題としては、「人手不足」「情報の不足」「規制緩和が必要」等が出されました。



地域活性化の最短ルートにも

多様な職種の人たちと意見交換をすることで、6次産業化のアイデアや実現への課題などが見えてきました。さらに踏み込んだ話し合いをしようというところで時間切れに。この集まりは、議員さんとも直接お話できるので、地域活性化に向けて行政へ協力を求めることや、政策反映への最短ルートにもなると思います。私も含め、協働のまちづくりアカデミー修了生など、地域づくりに取り組む市民は数多くいるので、その人たちとの意見交換会もぜひ開催してほしいですね。地域づくりへの意識がより高まると思います。

おざわ まさなお
小澤 正直さん

